

ピーマンおよびシシトウガラシにおけるこぶ症の 発生要因

下元祥史・矢野和孝・森田泰彰

Some Factors Inducing Gall-Like Disorder Which Occurred on Sweet Pepper

Yoshifumi SHIMOMOTO, Kazutaka YANO and Yasuaki MORITA

要約

近年、高知県のピーマンおよびシシトウガラシにおいて、葉および果実にこぶ状の突起物が発生する障害（こぶ症）が認められている。その発生要因は以下の通りである。

1. 無菌栽培のピーマンでも発生が認められ、発生部位から微生物は分離されなかったことから、病害の可能性は極めて低いと考えられた。
2. 発生は抗オーキシシン剤とサイトカイニン剤の散布により促進され、オーキシシン剤の散布により抑制された。
3. ピーマンを相対湿度 90%および 60%で栽培したところ、90%でのみ発生した。
4. 発生最適温度は 25℃付近であった。
5. 試験に供試した近紫外線除去ビニルフィルムおよび同ポリオレフィンフィルムはいずれも除去機能のないビニルフィルムより発生度が高かったが、その程度はフィルムの製品間で差が認められた。
6. ピーマン、シシトウガラシともに品種の違いによって発生程度が異なった。

キーワード：ピーマン，シシトウガラシ，こぶ症